

## 平成 21 年度 海外派遣者選考委員会報告

### 1. 平成 21 年度海外派遣事業

派遣者:大阪教育大学学務部学術情報課 図書係長 前川 敦子  
奈良教育大学学術情報課 係長(情報サービス担当) 赤澤 久弥  
派遣期間:平成 21 年 9 月 27 日～10 月 4 日  
調査研究テーマ:米国大学図書館における図書館サービス測定・評価の活用  
報告は別紙のとおり。

### 2. 平成 22 年度海外派遣事業

(経過)

平成 21 年 11 月 26 日 田嶋記念大学図書館振興財団へ助成金交付申請書を提出  
平成 22 年 2 月 8 日 海外派遣事業実施要項、海外派遣事業応募要領、海外派遣者選考基  
準、海外派遣者選考委員会規程を改訂  
平成 22 年 3 月 8 日 田嶋記念大学図書館振興財団から平成21年度助成金決定通知  
平成 22 年 4 月 1 日 平成 22 年度国立大学図書館協会海外派遣者募集開始  
平成 22 年 5 月 31 日 平成 22 年度国立大学図書館協会海外派遣者募集締切  
平成 22 年 6 月 4 日 人材委員会委員長が海外派遣者審査専門委員を指名  
平成 22 年 6 月 11 日 海外派遣者審査専門委員会主査から審査報告を海外派遣者選考委員  
会委員長に提出  
平成 22 年 6 月 14 日 選考結果を海外派遣者選考委員会において了承(書類回議)  
平成 22 年 6 月 16 日 選考結果を国立大学図書館協会理事会において了承(書類回議)  
平成 22 年 6 月 18 日 選考結果を国立大学図書館協会総会において報告

(選考結果)

長期:1件1名

派遣者:九州大学附属図書館 e リソースサービス室 e リソースサポート係・係員 兵頭 健志  
調査研究テーマ:①「eリソースを用いた図書館サービス」②「コミュニティ空間としての図書館」

短期:2件3名

派遣者:広島大学図書館社会連携・情報政策室図書学術情報普及グループ・主任 和田由季  
鳥取大学附属図書館情報管理課学術情報担当 津村 光洋  
調査研究テーマ:「英国におけるラーニング・コモンズ運用実態の調査」

派遣者:琉球大学附属図書館情報サービス課情報サービス企画係長 古謝 久美子  
調査研究テーマ:「図書館と研究支援:沖縄関係研究の支援を中心とした研究者コミュニティと図  
書館の連携について」

### 3. 委員名簿(平成22年6月の選考時点)○:委員長

野家 啓一 東北大学附属図書館長  
小山 清人 山形大学図書館担当副学長

○藤井 讓治	京都大学附属図書館長
小泉 潤二	大阪大学附属図書館長
佐藤 正樹	広島大学図書館長
柴田 昭二	香川大学図書館長
片山 俊治	東北大学附属図書館事務部長
川瀬 正幸	京都大学附属図書館事務部長
細戸 康治	大阪大学附属図書館事務部長
石井 道悦	広島大学図書館副図書館長

平成21年11月18日

平成21年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書  
奈良教育大学学術情報研究センター図書館  
赤澤久弥

このたび、平成21年度国立大学図書館協会海外派遣事業により米国の大学図書館を訪問の上、調査研究を行ったので以下のとおり報告する。なお、本調査研究は、大阪教育大学学務部学術情報課図書係長前川敦子氏(現 奈良先端科学技術大学院大学学術研究支援部学術情報課)と共同で行った。

1. 訪問期間

平成21年9月27日(日) ～ 10月4日(日)

2. 訪問先 / 担当者

- (1) Oberlin College Library, Oberlin College / Mr. Ray English & Mr. Alan Boyd
- (2) Alderman Library, University of Virginia / Mr. James Self
- (3) Wyndham Robertson Library, Hollins University / Mr. Luke Vilelle
- (4) McConnell Library, Radford University / Mr. Eric Ackermann

3. 調査研究内容

米国大学図書館のマネジメントシステムにおけるサービス測定・評価の位置づけと実施プロセス及びその結果が図書館運営に与える影響や効果等について調査した。主として、図書館サービス評価の活動実績のある中・小規模大学を対象に訪問し、担当者へのインタビューを中心とする調査を行った。

4. 調査研究の成果

コンソーシアムによる LibQUAL+の実施をはじめとする多様なサービス測定・評価の実施例及び統計学的手法による評価結果の分析手法、さらに、サービス向上や大学執行部への訴求材料等としての評価結果の活用のあり方や「評価の文化」の醸成を巡る課題等について、実例に基づく新たな知見を得た。また、大学図書館への Balanced Scorecard の導入事例及び課題と可能性について、豊富かつ有効な情報提供を受けることができた。

また、共同研究としては、それぞれの組織や経験を背景にして、随時に意見交換を行うなど、本派遣の過程は非常に有意義なものであった。

以上の調査研究の成果及び経験等については、発表等を行うとともに、今後の実務へ還元していくものとする。

## 平成21年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

奈良先端科学技術大学院大学教育研究支援部学術情報課

(派遣時 大阪教育大学学術部学術情報課)

前川 敦子

このたび、平成21年度国立大学図書館協会海外派遣事業により米国の大学図書館を訪問の上、調査研究を行ったので以下のとおり報告する。なお、本調査研究は、奈良教育大学学術情報研究センター図書館 赤澤久弥氏と共同で行った。

### 1. 訪問期間

平成21年9月27日(日) ～ 10月4日(日)

### 2. 訪問先 / 担当者

(1) Oberlin College Library, Oberlin College / Mr. Ray English & Mr. Alan Boyd

(2) Alderman Library, University of Virginia / Mr. James Self

(3) Wyndham Robertson Library, Hollins University / Mr. Luke Vilelle

(4) McConnell Library, Radford University / Mr. Eric Ackermann

### 3. 調査研究内容

米国大学図書館のマネジメントシステムにおけるサービス測定・評価の位置づけと実施プロセス及びその結果が図書館運営に与える影響や効果等について調査した。主として、図書館サービス評価の活動実績のある中・小規模大学を対象に訪問し、担当者へのインタビューを中心とする調査を行った。

### 4. 調査研究の成果

コンソーシアムによる LibQUAL+の実施をはじめとする多様なサービス測定・評価の実施例及び統計的手法による評価結果の分析手法、さらに、サービス向上や大学執行部への訴求材料等としての評価結果の活用のあり方や「評価の文化」の醸成を巡る課題等について、事例に基づく新たな知見を得た。また、大学図書館への Balanced Scorecard の導入事例及び課題と可能性について、豊富かつ有効な情報提供を受けることができた。

また、共同研究としては、それぞれの組織や経験を背景にして、随時に意見交換を行うなど、本派遣の過程は非常に有意義なものであった。

以上の調査研究の成果及び経験等については、発表等を行うとともに、今後の実務へ還元していくものとした。